

小林市文化財調査報告書第3集

おに つか  
鬼 塚 遺 跡

鬼塚地区特殊農地保全整備事業に  
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1991

宮 崎 県

小林市教育委員会

## 序

小林市教育委員会では、平成2年度鬼塚地区特殊農地保全整備事業に伴い、西諸県農林振興局の委託を受け、宮崎県文化課の協力のもとに遺跡の発掘調査を行いましたところ、縄文式土器、石鎌、煙管の吹口等の遺物が出土しました。

小林市教育委員会では、これらの貴重な遺物が、本市の古代史解明の糸口となることを心から期待しております。

なお、調査にあたって、御理解と御協力をいただいた黒沢津土地改良区、西諸県農林振興局、宮崎県文化課等関係各位に対し、深甚の謝意を表しますとともに、発掘作業に従事くださいました皆様に対しても厚くお礼申し上げます。

平成3年3月

小林教育委員会

教育長 山口寅一郎

## 例　　言

1. 本書は、小林市鬼塚地区の特殊農地保全整備事業に伴い、平成2年度に実施した鬼塚遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、小林市教育委員会が主体となり、社会教育課事務吏員中村真由美が担当した。
3. 調査組織は次の通りである。

調査主体 小林教育委員会

教育長	山口寅一郎
社会教育課長	中津留圭吾
同係長	黒木英夫
同係員	上別府優
調査員	中村真由美

調査協力 宮崎県教育庁文化課

主任主事 面高哲朗

4. 本書の執筆は、中村真由美が担当した。
5. 本報告の方位は磁北である。またレベルは海拔絶対高である。

## 本文目次

I.はじめに	1
II.地理的環境と歴史的環境	1
III.発掘調査の概要	3
IV.出土遺物	5
V.まとめ	8

## 挿図目次

遺跡分布図	2
基本層序	3
遺構分布図	4
遺物実測図1(土器)	6
遺物実測図2(石器・煙管)	7

## 図版目次

I・II区全景	11
遺物1~4	12

## I. はじめに

### 発掘調査に至る経緯

宮崎県西諸県農林振興局では、平成元年度から鬼塚地区特殊農地保全整備事業を実施している。平成2年度工事予定地内で土器散布が確認されたため、平成2年3月に試掘調査を行った。その結果、土器片が少量発見された。

この工事予定地内で遺跡の所在が確認されたため、西諸県農林振興局、黒沢津土地改良区、県文化課、市教育委員会の4者で協議を行った結果、総面積29haのうち工事によって包含層が削平を受ける部分については、発掘調査を実施することとなった。

調査期間は平成2年11月7日から12月27日までである。

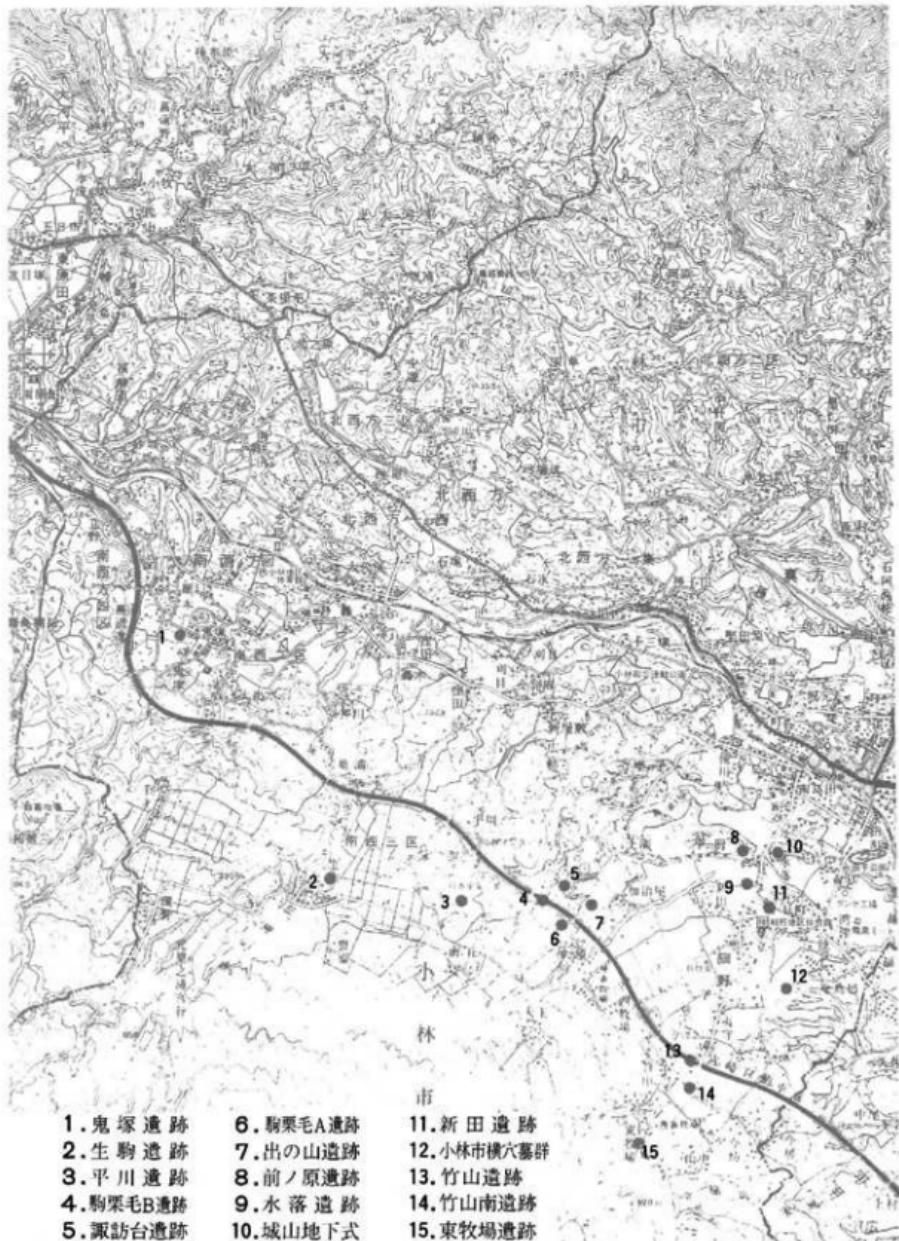
## II. 地理的環境と歴史的環境

### 地理的環境

小林盆地は、北を四万十層群からなる裏日向山地、西を加久藤溶結凝灰岩からなる溶灰岩大地に、また南を霧島火山群によって囲まれている。盆地内を石冰川などの小河川が流れ、合流して岩瀬川となって東流している。小林盆地は四万十層群を基盤とする扇状地と、海拔200m前後のシラス台地とからなり、シラス台地の上部には霧島火山などの噴出物が堆積している。

### 歴史的環境

当地では、本田遺跡・平木場遺跡などの縄文時代早期・前期の遺跡や新田場地下式横穴墓、東二原地下式横穴墓群のような古墳時代のものが知られている。現在市内で確認されている遺跡は約40ヶ所あるが発掘調査されたものは数ヶ所で、実態は不明である。



- 1. 鬼塚遺跡
- 2. 生駒遺跡
- 3. 平川遺跡
- 4. 胸栗毛B遺跡
- 5. 諏訪台遺跡
- 6. 胸栗毛A遺跡
- 7. 出の山遺跡
- 8. 前ノ原遺跡
- 9. 水落遺跡
- 10. 域山地下式  
横穴墓群
- 11. 新田遺跡
- 12. 小林市横穴墓群
- 13. 竹山遺跡
- 14. 竹山南遺跡
- 15. 東牧場遺跡

第1図 遺跡分布図 (縮尺 1:50,000)

### III. 発掘調査の概要

鬼塚遺跡は小林市街地から西へ約6km、標高335mの扇状地帯に位置する。また、標高375.3mの鬼塚山北側に座っている。南東約500mの地点に石水川支流も流れている。

鬼塚地区特殊農地保全整備事業に伴って県文化課が平成2年3月に試掘調査を行った結果、遺跡の存在が確認されたため、小林市教育委員会が主体となり、約2000m<sup>2</sup>の発掘調査を行った。

#### 基本層序

当遺跡の基本層序は、第Ⅰ層は茶褐色土層で耕作土である。第Ⅱ層は燈褐色土層で、いわゆる二次赤ホヤと呼ばれる火山灰土である。粒子は細かいが下位土層との境界ではやや粗くなる。第Ⅲ土層は明燈褐色土層で、第2オレンジであるいはアカホヤなどと呼ばれている火山灰土である。Ⅲ区では検出されなかった。第Ⅳ層は青灰色土層でカシワパンと呼ばれるものである。硬くやや粒子が粗い。

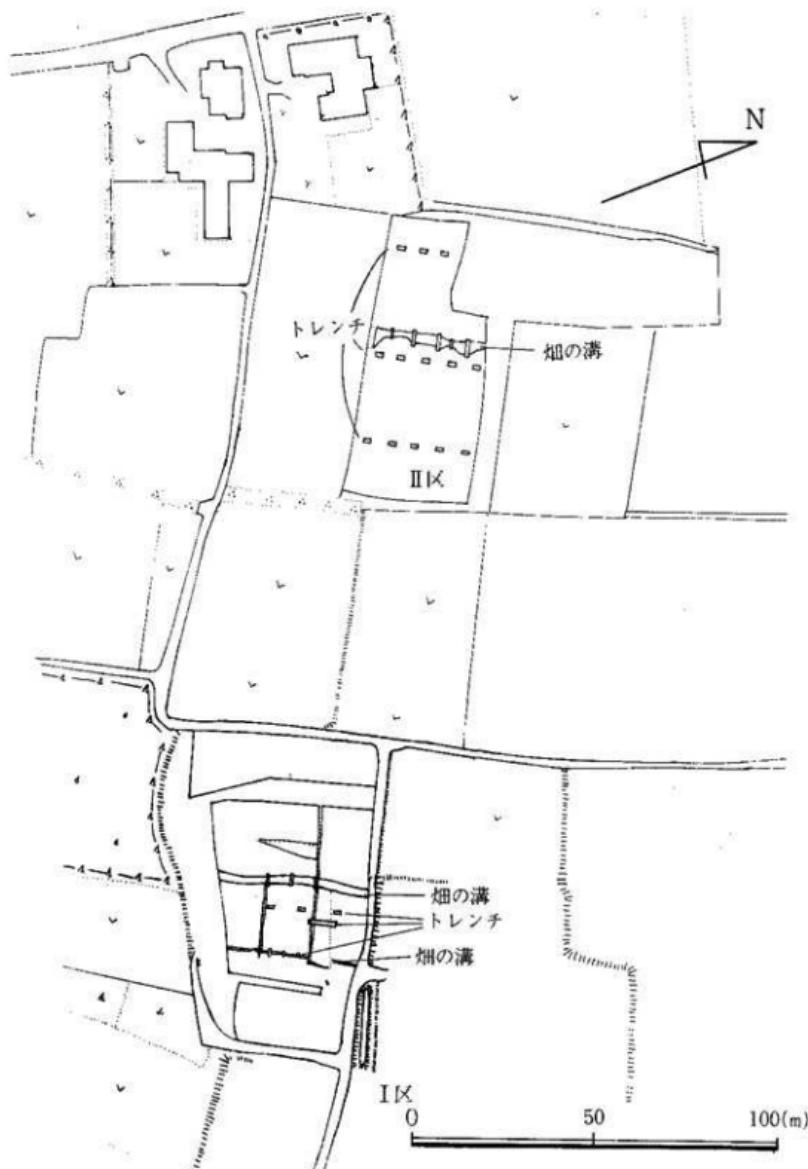
以上のとおり、調査区内で層の厚さなど若干異なるが基本的には同一である。

I . 表土 (界土)
II . 二次赤ホヤ
III . 赤ホヤ
IV . カシワパン

第2図 基本層序図

#### 遺構について

今回の調査区では、戦後ブルドーザーで造成した際、遺構は削平されてしまったものと考えられる。



第3図 遺構分布図

## IV. 出土遺物

### 土 器

1～3は深鉢の口縁部である。1は口縁部外面に平行沈線と半円状沈線を施している。波状口縁部に刻目を入れている。内面は粗く削っている。2は口縁部を帯状に肥厚させ、斜行沈線を一本施している。外面はナデている。3は口縁部外面に平行沈線を数条施している。いずれも縄文時代後期中葉のものと思われる。4は土師器杯片で、底部に糸切痕がある。

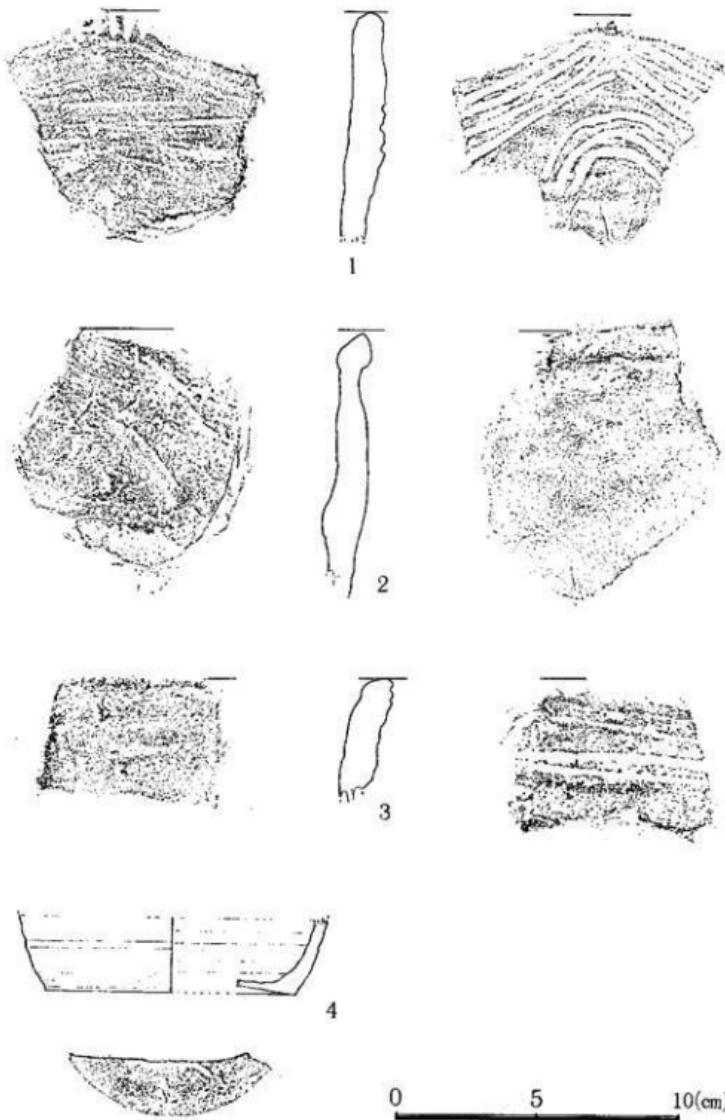
### 石 器

1・2は石鎚である。1はチャート製で2は黒曜石製である。3・4は黒曜石の石核である。2～4は気泡を多く含む。年代は土器に伴うものと思われる。

### その他の遺物

5・6は煙管の吹口部である。5は中央部から折曲している。いずれも銅製である。5の方がやや先行するものと思われるが、時期はどちらも18世紀と考えられる。

いずれも、造成時の搅乱層からの出土である。



遺物実測図 1

5



6



7



8



9



10



0



## 遺物実測図 2

## V. まとめ

鬼塚遺跡ではI・II区の2ヶ所で調査を行った。どちらも以前の造成によって攪乱・削平されており、遺構は検出できなかった。

遺物はI・II区ともに縄文土器が中心である。数点の口縁部片等から縄文時代後期中葉<sup>(1)</sup>  
<sup>(2)</sup>のものと思われる。煙管の吹口については18世紀初頭の時期を与えていたが、雁首に比べ、年代差が少ないため、多少時期がずれることもありうる。

全体的に遺物量も少なく、遺跡の範囲・性格等の詳細は不明であるが、おそらく住居跡が存在していたものと思われる。

当地では、調査は始まったばかりであるので、この地域の遺跡については、今後の調査によって明らかにしたい。

## 註

- (1) 河口貞徳 「南九州後期の縄文式土器－市来式土器－」  
『河口貞徳先生古希記念著作集 上巻』 1981
- (2) 「染井 I 東京都豊島区・染井遺跡（日本郵船地区）の発掘調査」  
豊島区教育委員会 1990  
古泉弘 「江戸の街の出土遺物－その展望－」季刊考古学第13号 雄山閣

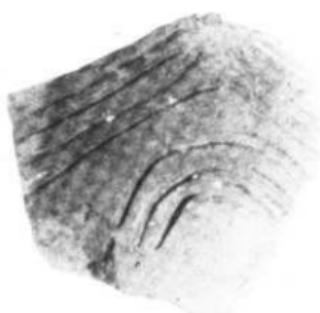
## 参考文献

- ・「水落遺跡」『小林市文化財調査報告書』 第1集 小林市教育委員会 1990
- ・「東二原地下式横穴墓群」『小林文化財調査報告書』 第2集 小林市教育委員会  
1990

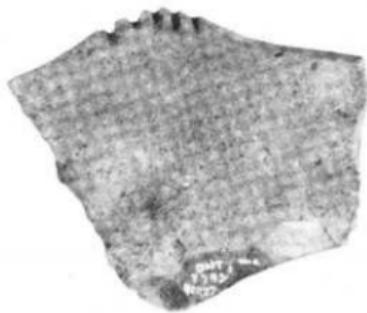
## 図 版



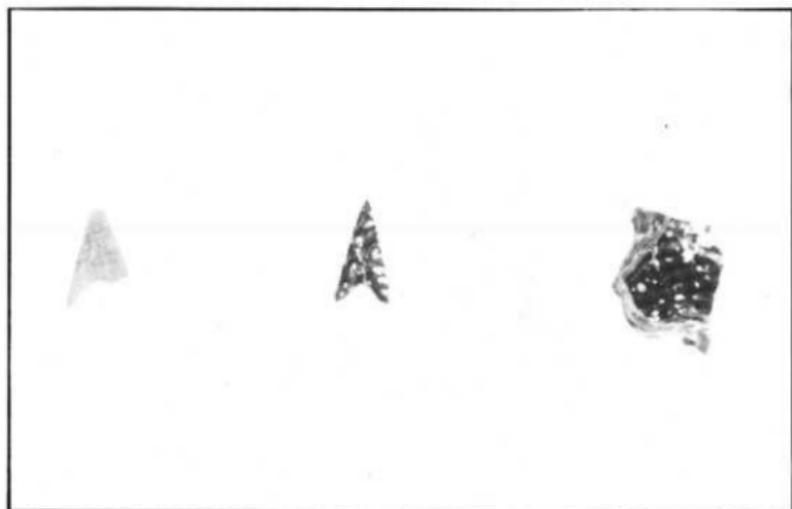
I · II 区全景



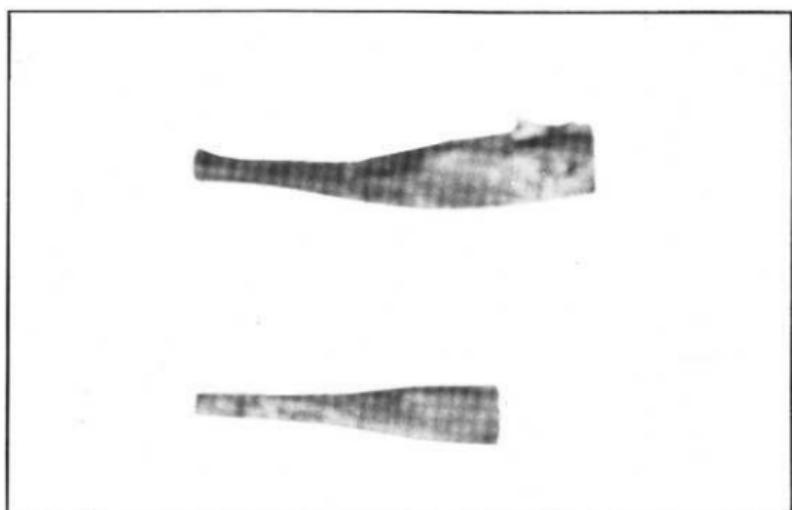
遺物 1 (表)



遺物 2 (裏)



遺物 3 (石器)



遺物 4 (煙管)

小林市文化財調査報告書第3集

鬼塚遺跡

発行年月日 平成3年3月31日

編集発行 小林市教育委員会

印 刷 小蘿印刷